

ヘルスメーター

帯状疱疹ワクチンについて

帯状疱疹は、子どもの時に感染する水ぼうそうのウイルスが原因で起こり、治った後も、ウイルスは体内に潜伏していて、過労やストレスなどで免疫力が低下すると、ウイルスが再び活性化し発症します。症状としては、体の神経に沿って、痛みを伴う赤い斑点と水ぶくれが多数集まって帯状に生じます。

通常、皮膚症状に先行して痛みが生じ、その後皮膚症状が現れると、刺すような痛みとなり、夜も眠れないほど激しい場合があります。皮膚症状が治ると痛みも消えますが、神経の損傷によってその後も痛みが続くことがあります。通常、50歳代から発症率が高くなるといわれています。帯状疱疹にならないためには、食事のバランスに気をつけ、睡眠を十分にとるなど、日頃から体調管理を心がけることやワクチンを接種することによって予防することができます。

帯状疱疹ワクチンには2種類あり具体的には弱毒化生ワクチンの「ビケン」か、不活化ワクチンの「シングリックス」があります。それぞれの特徴として、ビケンの方がコストを抑えることができ、接種回数も少ないです。また、予防効果や帯状疱疹後神経痛についてはシングリックスの方が上回ります。副反応についてはシングリックスの方が打った部分の痛みや腫れが強いと言われています。ワクチンを接種することで、発症率を下げ、重症化を防ぎ、帯状疱疹後神経痛を予防する効果が期待できますので50歳以上の方は予防接種を受けることをお勧めします。